

「技報発刊に寄せて」

平成 16 年度の国立大学法人化とともに一元化された技術職員の組織である名古屋大学全学技術センターは、今年度から本実施に移行しました。本実施にあたり、運営委員会、人事委員会、実務委員会、運営専門委員会、および運営専門委員会の下部組織である技術支援室委員会や技術系連絡委員会がより機能的に活動を始めました。また、円滑な組織運用を目指すため、昨年度に引き続いて、外部講師によるコーチング研修や図解思考力向上研修を行いました。今年度はこれらに加えて整理力向上研修も行って一層円滑な業務遂行を目指しました。また、個々の資質を見つめ直し、優れた点、改善すべき点等を評価者とともに再確認しながら、得意分野を更に伸ばしていくための人事評価については、技術職員全員を対象に、昨年度の第一次試行における問題点の洗出しと再検討を行って第二次試行として実施しました。

全学技術センター工学系技術支援室から派遣された技術職員の派遣先部局における組織である工学研究科・工学部技術部では、工学研究科の教育研究技術支援はもとより、全学からの業務依頼についても幅広く受入れております。近年は各専攻や研究室からの技術支援業務依頼はもとより、大学の管理運用共通業務である情報サーバー管理、Web アプリ制作や労働安全衛生法に基づく作業環境測定・安全衛生巡視等に関する業務、大学の地域・社会貢献に関する業務等、多様化してきています。一方、恒常的な定員削減に加え、新設の研究センターへの配置など、厳しい面もあります。

このような背景と科学技術の発展・高度化・多様化の時代にあって、情報、計測制御、機械、環境安全、化学等の専門技術分野をはじめ、関連する技術において更なる技術力向上が求められています。これらの要求に応えるために、技術職員は学内外での技術研修・技術発表、特別講演会、技術講習会や日々の自己研鑽等、さまざまな機会を利用して新しい知識の習得や技術力の向上を意欲的に行って、教育研究を支援し推進する技術・技能集団としてその役割を果たしています。

この「技報」は、通常の業務である教育研究技術支援業務以外の、平成 21 年度における技術部活動をまとめたもので、大学における技術支援業務をより良くするための技術職員の記録であると同時に、学内外の教員及び関係する皆様に技術部の活動内容を発信するものであります。ご高覧いただければ幸いです。

尚、本誌の発行にあたり、多大なご尽力とご支援いただきました工学研究科長・副研究科長をはじめ、教員、事務職員、その他の関係各位には心よりお礼申し上げます。

平成 22 年 3 月

工学研究科・工学部 技術部
(全学技術センター工学系技術支援室)
室長 佐々木敏幸